2020 年度 JICA 地球ひろば　国際理解教育/開発教育指導者研修

国際理解教育/開発教育　学習指導（活動）案

【実践者】

授業者氏名	安田　誠	学校名	私立　箕面自由学園中学校
教科（科目）・領域	総合的な学習の時間	対象学年（人数）	1 年 1 組・2 組（各 30 名）
実践年月日もしくは期間（時数）		実施日 12/14　実施期間４月～３月（断続的に９時間）	

【実施概要】

1. 単元名（活動名）：パートナーシップから自分のキャリアについて考える

2. 実践する教科・領域：

総合的な学習の時間

3. 学習領域

	1	2	3	4
A多文化社会	文化理解	文化交流	多文化共生	
B グローバル社会	相互依存	情報化		
C 地球的課題	人権	環境	平和	開発
D 未来への選択	歴史認識	市民意識	社会参加	

4. 単元の目標（評価規準を意識して設定）：

世界で活躍する様々な日本人の姿を通じて、日本が世界に対してどのようにSDGs17「パートナーシップ」を実現しているのかを理解し、そして自分が将来取り組んでみたい社会課題や関連するSDGsについて考える。

5. 単元の評価規準	①知識及び技能	世界を舞台にする仕事について知る。
	②思考力、判断力、表現力等	自分が取り組みたい社会課題と SDGs の 17 の目標を結び付け、伝えることが出来る。
	③学びに向かう力	自分が将来取り組んでみたい社会課題を考える。

6. 単元設定の理由・単元の意義（児童/生徒観、教材観、指導観）

【単元設定の理由あるいは単元の意義】

本校の総合的な学習の時間では「周りの人と協力しながら、自分自身の世界を広げ、世界に羽ばたく人材を育成する」という目標のもと中学校1年生では、幅広い知識の獲得を目指し、SDGｓを知る授業を展開している。

生徒達はいずれ成人し、社会で働く。ただ、社会の変化のスピードは速くAIなどの進化により、生徒達が成人した段階でどのような職業が存在するのか、想像できない面もある。しかし、どのような仕事であれ、何かの為に働くのかという自分自身が思い描いた信念があれば、その仕事を愛することが出来ると思う。すなわち社会的意義を自分の中で見出すことが出来れば、生徒達がどのような職業についても充実した仕事が出来るであろう。社会的意義の多くはSDGsを通して語ることが出来る。今、我々人類が直面している課題をまとめたものがSDGｓであるからである。

中学校１年生は、将来の職業についてしっかりと考え抜いた経験のある生徒は、あまりいない。そして、当たり前のことであろうが、限られた世界観の中でしか考えられない。生徒達の世界観をいかに広げていくか、そしてそれが生徒達の職業観に少しずつ影響させていくことがキャリア教育の１つとしても大切である。その職業観の中の軸としてSDGsがあれば、それがSDGsを「自分ゴト化」していくプロセスにもなるであろう。この点が本単元の意義として考えられる。

【児童／生徒観】

生徒達はここまでSDGsに関する様々なテーマを学んできている。本校の中学校1年生の総合的な学習の時間の流れとして、出来るだけ世界に目を向けることを目指している。海外旅行に行ったことが無い生徒が過半数を超える中で、SDGsの世界観は生徒達にとって初めて触れる世界でもあった。ただし、まだ遠い世界の話としか捉えられておらず、また自分たちも世界に飛び出すことが出来るのだという感覚は持ち合わせていない。この部分も本時で脱却したいことの

	1 つである。 【教材観】 今回はマインドマップ等を使用したグループワークと共に映像教材を活用する。世界で働く日本人という観点、世界のために働く日本人というものに出会ったことがない生徒達にとっては、口頭説明で理解させるよりもイメージを沸かせた方が良いからである。 【指導観】 生徒達にとって、見たことがあるもの、聞いたことがあるもの、身近な人が働いている職業はイメージが出来る。学校が持たせているiPadや各自のスマートフォンなどにより、以前に比べて多くの情報に触れることが出来るようになった世代ではあるが、一方で自分たちが選択した情報しか持ちえない状況も生まれている。これは、テレビと新聞が主な情報源だった時代に比べると、実は生徒達の持っている情報量は以前に比べて少ないのではないかという仮説にたどり着く。この仮説の検証は難しいが、この仮説に基づくならば、教員が意図的に情報を与えていくことが必要であろう。一方で、口頭説明だけではどうしても教員の中の世界観というイメージが生徒に出来てしまうこともある。よって、映像の力に頼ることが必要なのではないか、と考える。SDG s という教員自身も同時進行で勉強していくテーマを扱う場合には、ましてこの手法が有効であろう。

7. 単元計画（全　9　時間）

※全体の総時間数や「本時」の記入場所は適宜変更してください。

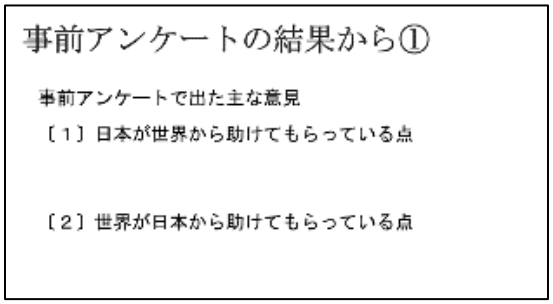
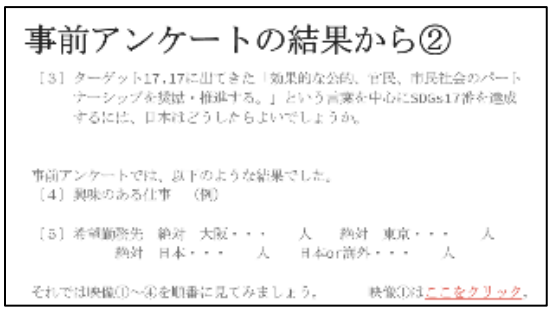
時	ねらい	学習活動	資料など ※：JICA リソース活用はここに記載
1	地球温暖化を知り、それを通じて SDGs について考える。	・温暖化のシュミレーションなどの視聴 ・事前アンケートの共有 ・グループで話し合い意見をクラスで共有	環境省 「地球シミュレーター～RCP2.6 と 8.5 比較」 「2100 年未来の天気予報」
2	海外から日本に働きに来ている外国人の方の現状について知り、外国人の方たちとの共生や共に働いていくことをを考える。それを元に SDGs11 番「住み続けられるまちづくりを」についても考える。 【これからの労働環境】	・映像の視聴 ・グループで話し合い意見をクラスで共有	NHK for school アクティブ 10 公民 第 2 回　「グローバル化、キミには関係ない」視聴
3	南アフリカでのレアメタルなどの採掘現場と、人々の暮らしを通じて、自分たちの生活が海外に支えられていることを考える。そこから、アフリカへの日本の支援を考えるとともに、SDGs12 番「つかう責任、つくる責任」について考える。 【働く際に視野に入れておくべきこと】	・映像の視聴 ・グループで話し合い意見をクラスで共有	NHK for school 10min ボックス地理 第 4 回 「南アフリカには豊富な資源があるのに、どうして貧困が続いているの？」
4	働くことの大切さと働く環境の創出がいかに大切か、という点について考える。日本であれ、海外であれ、雇用の創出と適切な教育環境がなければ、世界の安定が失われる可能性に気づかせることで、SDG s 10 番「人や国の不平等をなくそう」について考える。【何故、労働が大切か】	・映像の視聴 ・グループで話し合い意見をクラスで共有	TED 「若年層の失業問題とテロリズムの関係」（モハメド・アリ）

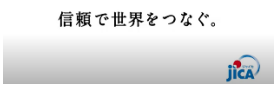
5	働きがいとは何かを考える。身近な日本の話から始めてフェアトレードとは何か、何のためにあるのかを考えさせることで、SDGs8 番、「働きがいも経済成長も」について考える。 【働きがい】	・事前アンケートの共有 ・映像の視聴 ・グループで話し合い意見をクラスで共有	NHK for school アクティブ 10 公民 第 17 回 「なんのために働くの？」 PatagoniaJP 「フェアトレード：最初の一歩」
6	AI の進化について考える。そこから、AI と共存していく時代に求められる力とは何かを考えていく。STEAM 教育というアイデアに触れることを通じて、SDGs9 番「産業と技術革新の基盤をつくろう」について考える。 【AI との仕事、求められる力】	・マインドマップの記入 ・映像の視聴 ・グループで話し合い意見をクラスで共有	経団連 「20XX in Society 5.0～デジタルで創る、私たちの未来～」 NHK for school アクティブ 10 公民 第 1 回 「"AI"で社会はどう変わる？」 経済産業省 「STEAM JAPAN」
7 本時	・将来働く際に大切にしたいことは何かを考える。 ・海外を舞台に働いている人たちの存在と、日本の国際協力について知る。 ・SDG s の 17 の目標に着目して、自分が将来働く上で取り組みたい社会課題は何かを考える。 ・SDGs17 番「パートナーシップで目標を達成しよう」について考える。 【社会的意義を考えた働き手の創造】	・マインドマップ記入 ・事前アンケートの共有 ・映像の視聴 ・グループで話し合い意見をクラスで共有	外務省「国際機関で働く日本人」 JICA コンセプトムービー「私たちの星」 JICA-Net ライブラリ「JICA 海外協力隊 富田さんの場合」 NHK for school クリップ映像 「NGO の役割」
8	実際にどのような職業があるのかを知り、自分が就いてみたい職業とは何かを考える。そして、自分たちの意見をまとめていく。その際に SDG s 的な視点を含めさせる。 【まとめ】	・個人ワーク（仕事の検索） ・グループで話し合い意見をクラスで共有	厚生労働省 「職業情報提供サイト （日本版 O-NET）」 などを活用する。
9	【校外学習】 JICA 関西訪問プログラムの活用を通じて、実際に世界で働いてみた人の話を聞いてみよう。自分たちにも将来出来ることがないか考える。	・海外青年協力隊の方の体験を伺う ・グループで話し合い意見をクラスで共有	

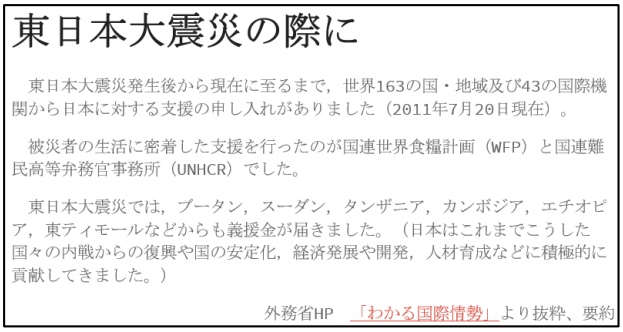
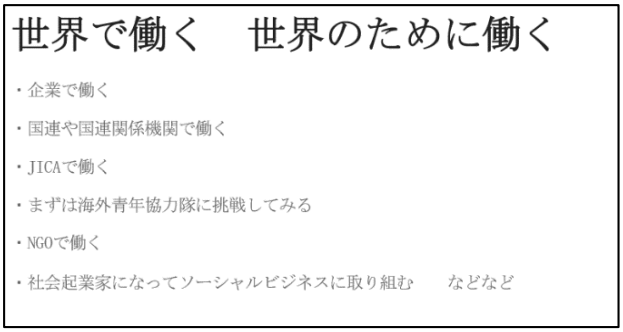
8. 本時の展開

本時のねらい：

海外を舞台に働いている日本人の姿を通じて SDGs17「パートナーシップ」の一面である国際協力について理解する。そして SDG s 17 に着目して、視野を広げ、自分が将来働く上で取り組みたい社会課題は何かを考える。

過程・時間	教師の働きかけ・発問および学習活動	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
	事前アンケート実施、以下の２点を考えさせる。 ・これまでの授業を踏まえて、日本が世界を助けていること、世界から日本が助けられていることは何かを考える ・興味のある仕事と将来の希望勤務場所		
導入 （10分）	グループ作成、ワークシート配布。 「将来、自分が働くときに、職業選択の上で、自分が大切にしたいことを考えてみましょう。」 「これまでの授業を踏まえて、働く場合に大切にしたいことは何かをマインドマップ記入しましょう。」 グループ内で意見を共有する。 「自分がどのように社会に役立ちたいか、という視点があるかをマインドマップで確認してみて下さい。」	グループ内で意見を共有し、イメージを膨らませる。	
展開① （15分）	事前アンケートを、クラス内で共有。   	海外勤務希望が多い場合は、何故海外で勤務してみたいか、その理由を問い共有していく。 日本も含め、全世界で SDGs を達成していくということを意識させる。	

	「日本と世界が相互に助けあっている状況の一方で、海外で働きたいという希望が少ないですね。」 「ターゲット 17.17 に出てきた『効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する』という言葉を中心に SDGs17 番を達成するには、日本はどうしたらよいでしょうか。」 ・支援するお金をどんどん出す ・海外に出て、外国人の方と一緒に働く　など スライド進行と共に映像①～④を視聴する。 映像①：ユニセフや UNDP での活動で海外で働く日本人のインタビュー 映像②：JICA が海外展開する事業の紹介 映像③：JICA 海外協力隊でルワンダで活動する女性へのインタビュー 映像④：援助を必要とする人びとのために働く民間の組織としての NGO の紹介。 映像④の前に質問する。 発問：「NPO と NGO とは何ですか、どのように違いますか」 ・知らない、わからない ・どちらかが海外で活動している　など 発問： 「日本にある NGO は何団体ぐらいでしょうか」 ・100　　・10000　など **こんな働き方もあります** ・NPOとNGOとは何ですか、どのように違いますか NGO　Non Governmental Organization（非政府組織） NPO　Non Profit Organization（非営利組織） ・日本にあるNGOは何団体ぐらいでしょうか。 300以上（外務省 JANIC　NGOデータブック2016）に基づく。 市民団体が母体のものが多い。 映像④はここをクリック	世界で働く　世界のために働くことについて考えさせる。その中で、日本人がいかに世界の社会課題解決のために働いているか、その想いを知る。	映像① 外務省「国際機関で働く日本人」 映像②JICA コンセプトムービー「私たちの星」  映像③JICA-Net ライブラリ「JICA 海外協力隊 富田さんの場合」 映像④ NHK　for　school クリップ映像 「NGO の役割」

	映像終了後、日本と海外の協力体制について、スライドに基づき説明する。   		
展開② （15分）	発問：「自分が将来取り組んでみたい社会課題はありますか。日本の問題でも世界の問題でもOKです。もしSDGsの目標を見てみましょう。どれか、自分自身で取り組んでみたい目標はありますか？」 ・飢餓を無くす ・病気で困っている人を助ける　など 個人ワーク→グループ内で共有。グループ発表。		
まとめ （5分）	他のグループの意見も聞いた上で、どのように感じたか、また自分の意見に変化はあるか、などの振り返りを記入。		

9. 評価規準に基づく本時の評価（評価方法）

・日本がSDGs17番を達成するために何をすべきか考えられているか。

・個人ワークを通じて、自分が将来取り組みたい社会課題やSDGsを考えまとめられているか。
グループ内で意見共有し、自分の意見の視野を広げることが出来ているか。
（全てワークシート、発表、グループワーク時の発言状況に基づき評価）

10. 学習方法および外部との連携

【学習方法】

今年度は、社会情勢もあり、生徒同士の意見交換が難しい授業展開が求められる。しかし、教員が一方的に話をするだけでは、生徒の中に印象が残りにくいことも想定される。そこで、映像教材を出来るだけ活用した授業展開を心掛け、その中で、生徒の活発な意見発表やワークシートによる振り返りを試みている。また、映像視聴に際しては、ただ見るだけにならないように、事前に何がポイントになるかを伝えたり、映像に出てくる内容の穴埋めをさせることで、受け身になりすぎない様に心掛けている。

【外部との連携】

単元計画に示した全 9 時間のうちの最後は校外学習となっている。本来であれば、JICA 関西訪問プログラムを活用して海外で働くことの話を直接聞くことが出来ればと考えている。教室の外に出ることで、より印象に残る授業となるであろう。しかし、それが難しい場合には、zoom などを使って、海外展開している NGO や NPO の方のお話しをお伺いする、あるいは卒業生でも海外勤務経験者に話を聞くなどの時間は持ちたいと考えている。

また、Panasonic から提供を受け、「オリンピックとパラリンピックを題材とした教育プログラム」を別途実施している。こちらでも国際理解教育に通じる部分がある。これに限らず、様々な教材を今後も活用していきたい。

11. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取り組み

・総合的な学習の時間については、全授業公開型で実施しているので、本校教員ならば誰でも参観できる体制になっている。
・特に本時に関しては、公開授業の体制をとりたい。
・本時において、外部からの授業参観があれば、本校の HP に授業の模様と共に記載される見込み。
・総合的な学習の時間のうち、SDG s に関する部分の教材は全学年共通で利用できるようになっている。
・中高一貫となった高等学校においては、現在ユネスコスクールの加盟申請に向けて、チャレンジ期間をほぼ終え、申請する段階となっている。
・高等学校で 2018 年度から担当学年を中心に取り組み始めた SDG s 学習であるが、中高の枠を超えて、校内の取り組みの様々なところで SDG s を考える機会を増やしていっている。特に本校の学校案内パンフレットには SDG s について学んでいることが大きく記載されており、結果的に学校外にも SDG s を普及させていっている。

【自己評価】

12. 苦労した点	今回の授業は、グループワークを設定していましたが、コロナ禍の影響もあり、グループワークは避ける事態となりました。その代替措置として、タブレットによりクラス全体で意見を共有する形にしましたが、意見を拾い上げるのに少し時間がかかりました。そのため、授業時間設定がギリギリになりました。
13. 改善点	本校は 1 時間が 45 分授業であり、他校であれば 50 分授業の学校が多いと思われるので、恐らく時間設定はそこまで厳しくないと考えます。グループワークの時間をきちんと確保するためには、テンポよく進んでいく方が良いと思います。

14. 成果が出た点	・日本が SDGs17 番を達成するために何をすべきか考えられているかについて、生徒たちはワークシートに書き込めていました。 ・個人ワークを通じて、自分が将来取り組みたい社会課題や SDGs について考えられていることがワークシートや授業後のアンケートで理解できました。 ・グループ内で意見共有し、自分の意見の視野を広げることが出来ているかについては、今回はグループワークを実施できませんでした。代替措置としての全体アンケート共有で生徒たちは級友の意見を聞くことが出来、様々な意見に共感などをしていました。 ・授業実施後に実施したアンケートによれば、今回の授業を経て、海外で働くことに興味を持った生徒が約 65%いました。もともと海外で働くことに興味を持っていた生徒が 23%いるので、大半の生徒が海外で働くことに興味を持ってくれました。事前アンケートで質問をした興味を持っている仕事の回答の内容を鑑みても、興味関心を持たせるという点では成功をしたと感じます。また、それが SDG s のそれぞれの目標と関連させられるということも理解出来ているようにワークシートから見受けられました。グループワークを実施しない形にしたため、授業で追加したアンケートによれば、授業実施前に「JICA」を知っていた生徒は 14%でした。ユニセフの 98%、ユネスコの 60%に比べれば少ない感は否めませんでしたが、今回の授業を通じて「JICA」の認知度は各段に上がったと感じます。今回の授業で海外で働く仕事の存在に気づくきっかけにはなった授業であると考えられます。
15. 学びの軌跡（児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど）	授業後アンケートによる生徒の感想より、授業を受けて ・世界の活動や、日本の活動をたくさん知ることができて、良い機会になった！ ・海外で働く事に少し興味を持った ・新しいことがたくさん知れてよかったし、SDGs について興味がわきました。 ・自分も人のためになれるような活動をしてみたいなと思いました ・日本人が、思っていたよりも世界の役に立っていて聞いている自分も嬉しかったです。 ・環境問題や難民の方を助けるために海外で活躍されている日本人の方々のことを知れて良かったですし、授業の最初には分からなかった JICA のことも知れてためになりました！ ・自分のことだけを考えるのは違うと思いました ・知らなかった職業や制度をしれて楽しかった ・海外での仕事もいいかなと思った ・世の中には世界の人々を助ける仕事が沢山あるというのがわかった ・ずっと jica の事をあまり知らなかったけど少し知れた。もっと知りたいです。 ・少しでも何かできることがないか常に考えようと思った。 ・SDGs が成功するために今、自分が何ができるかを考えて過ごしたいと思います。
16. 授業者による自由記述	今回の授業では SDG s 17 番をメインテーマに扱う事を目的にして当初から計画していました。これまで総合的な学習の時間を高等学校で担当してきて SDGs を知る学習を実施してきて、SDGs が自分ゴトになった生徒も何人かいました。そもそも、高校生でも SDGs でよく出てくるような社会課題をあまり知らずに卒業する生徒たちもい

	ました。その一つの理由として考えられるのが無関心です。この無関心がどこから来るのか、その理由を考えた時に知らないからだということにたどり着きました。情報化社会の中で、自分から望めば多くの情報を得ることが出来ます。その一方で、自分たちの興味関心の範囲しか知らずに日常を過ごす生徒の姿もよく見受けます。 日本の置かれている現状、世界の現状、SDG s を達成すべき理由、これらを一つずつ丁寧に知ることが大切なことであると考えます。そしてその先に主体的な学び総合的な探究につながるものがあると思います。本校でも様々な活動を実践していますが、背景的知識を知っているか知らないかの差がはっきり出る場面でもあります。世界で活躍する日本人の少なさが嘆かれることもしばしばありますが、それは背中を押してあげる大人の存在が不足しているからではないでしょうか。学校として、教員として、生徒達の多様な可能性を拡げる活動の一つとして、今回のように世界という舞台が生徒達には待っているのだということを伝えていくことの大切さを改めて感じました。今回の授業をきっかけに、さらに今後の授業を通じて SDG s で達成すべき世界の姿を伝えていくことで、生徒達が自分たちの無限の可能性に気づいてくれればと思います。今回の実践が SDG s が達成されている 2030 年に社会に飛び出していく中学校 1 年生だからこその授業にすることが出来たのではないかと感じています。

参考資料：

JICA などの HP、NHK for school、各種 youtube 素材など

2020 年度　中学校　I･U　SDGsを知る　第7回　ワークシート　12/14

１年　　組　　番　氏名（　　）

17 番「パートナーシップで目標を達成しよう」
17.17　さまざまなパートナーシップの経験や資源戦略を基にした、効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する。

【１】将来、自分が働くときに、職業選択の上で、自分が大切にしたいことを考えてみましょう。
（思いつくことを、マインドマップで考えてみましょう）

職業

【２】グループで意見を共有してみましょう。友達の意見で、参考になる意見があれば書きましょう。

職業

【３】事前アンケートの皆の意見を聞いて、気づいた点を書いてみましょう。

〔１〕日本が世界から助けてもらっている点

〔２〕世界が日本から助けてもらっている点

〔３〕ターゲット 17.17 を中心に、SDGs17 番を達成するには日本はどうしたらよいでしょうか。

【４】 映像①～④を視聴しながら気づいたことをメモしていきましょう。

NGO: **NPO:**

【５】 自分が将来取り組んでみたい社会課題はありますか。日本の問題でも世界の問題でも OK です。もし分からなければ、SDGsの目標を見てみましょう。どれか、自分自身で取り組んでみたい目標はありますか？

① 取り組んでみたい問題

② 関連する SDG s の目標の番号

③ 理由

【６】 グループ内で意見を共有しましょう。他の人の意見を書いてみましょう。

１人目　SDGs番号	**２人目　SDGs番号**
３人目　SDGs番号	**４人目　SDGs番号**

【７】 クラス内で意見を共有します。印象に残った友達の意見を記入しましょう。

【８】 級友たちの意見も踏まえて、【４】に書いたことをもう一度見直してみましょう。
変わった部分があればそれを書いてみましょう。また、皆の意見を聞いた感想も書いて下さい。